

道路トンネル管理の高度化推進プロジェクト (2023年～2026年)

トンネル管理の高度化支援による道路安全の確保・地域の発展に貢献

■ 実施団体：

一般社団法人北海道開発技術センター

■ 対象国・地域：

ジョージア国トビリシ市及び東西ハイウェイ（ゴリ、リコティトンネルほか）

■ 現地カウンターパート

地域開発インフラ省道路部



■ 協力内容：

- ・日本の台帳を基礎に、カウンターパート（以下、C/P）と協働で、ジョージア版のトンネル台帳及びトンネル点検ガイドラインを作成する。
- ・将来デジタル技術や新技術を取り入れるための「トンネル管理高度化計画」を策定し、地域開発インフラ省道路部局内で啓発を行う。

■ 団体のこれまでの取り組み：

寒地開発技術の発展に関する業務、寒冷地地域の課題の解決に向けて、技術と政策の両面から支援を行っている。

■ 事業実施の背景：

ジョージアは中央アジアとヨーロッパ、中東地域を結ぶ要衝に位置する。国際的な物流の中継地とし発展するため、国土の東西及び南北を貫く幹線道路の整備、長大トンネルの建設等が進められているが、トンネルを含む道路施設の体系的な維持管理が不十分であり、安全な交通網の維持のためには管理体制の整備が急務である。

ジョージア国の課題と成果

課題①

トンネルを含む道路構造物の体系的な維持管理が不十分である。

成果①

C/Pと共同でトンネル10本分のジョージア版台帳及びトンネル点検ガイドラインを作成した。

成果②

トンネル点検方法、点検結果の整理等のデジタル化を図り、点検作業の効率を高める内容で「トンネル管理高度化計画」を作成し、同国の体系的なトンネル管理・方向性を整理した。



事業の波及効果



物の導入から、人の育成へ

- ・C/Pは、トンネル点検機材（画像撮影・診断車両）の導入を強く希望していたが、「機器（物）」の導入ではなく、それを継続的かつ適切に運用・維持管理する「人材」の重要性を強調した結果、C/Pは人材育成の重要性を十分に理解し、具体的検討を開始した。
- ・日本企業の技術・製品を紹介したことを契機として、同国における道路インフラ分野でのビジネス展開の可能性が具体化し、その結果、同国におけるJICAビジネスツアーの実施へとつながった。
- ・本邦研修は、道路管理者、民間企業等幅広く協力を得て実施し、国際協力の裾野の拡大に貢献した。